

# ちよつとしい話

## ～ 歡喜 ～

平成16年も12月をむかえ残りわずかに成りました。第44号自然じねんにて自然との闘いの中に融合を求めました。それで今年の締めくくりにかんぎを歡喜にしました。人生には誰にも事跡があり、事跡を辿る事でその足跡が分かります。足で歩んだ時間がこの肉体を運び我々の喜怒哀楽を見つめ八正道なる道しるべを初転法輪にて仏陀釈迦は説き示されました。八正道については第34号を参照して下さい。物のリサイクル、心身のリフレッシュが懺悔の教えであり、全てを生き生かす事により極楽の環境を作る事に成ります。以心伝心、良い方向に進むべき心の大切さは第27,38号を参照して下さい。

歡喜（かんき）と読めば心から非常に喜ぶ事ですが歡喜（かんぎ）と読めば佛教用語になり、意味が深く成ります。仏法を聞き満足し信心決定した時にこそ起こり来る喜び、或いは名号（仏様の名前）を聞いて信心歡喜し浄土往生する事を言います。ほかに、歡喜奉行、かんぎしんぎょう歡喜信樂の様に經には出てきます。例えば無量壽經の中に無量壽佛の名を聞いて五体を投地し歡喜信樂して、菩薩の修業をしなければ佛にはなりません。と四十八カ条の願文にあります。信は誠、真実に導き、樂は歡喜を願う事です。大切な佛教の守護神に歡喜天と言う佛様がみえます。俗にしょうてん聖天さんと呼ばれ親しまれております。四国85番八栗寺に御祀りされ多くの信者がみえます。一般的には商売繁盛ですが夫婦和合、安産の神としても崇拝されております。一年のけじめとしてかんぎゆやく歡喜踊躍出来る様に身をもって努力しましょう。

善入院油掛地藏尊